陸奥国南部の様相

須賀川市文化振興課　管野　和博

はじめに

陸奥国南部（現在の福島県域）における古代施釉陶磁器の出土遺跡は65遺跡、470点（灰釉359点、緑釉97点、二彩・三彩10、輸入陶磁器４）となる。柳沢和明が1994年に陸奥国の集成のうち陸奥国南部は15遺跡、270点（灰釉197点、緑釉70点、奈良二彩・三彩２、輸入陶磁器１点）であり（柳沢1994）、資料数が大幅に増加した。

ここでは、陸奥国南部の施釉陶磁器の分布と出土遺跡の特徴などについてまとめる。なお、施釉陶器の産地分類・編年は『多賀城施釉陶器』に準拠した（宮城県多賀城研2020）。

１．施釉陶磁器の分布

施釉陶磁器の分布は中通り地方で25遺跡（26地点）、浜通り地方で18遺跡（20地点）、会津地方で17遺跡（18地点）となる。会津・浜通り地方では灰釉陶器が出土する遺跡の半数近くが緑釉陶器も保有するのに対し、中通りは灰釉陶器のみの出土が大半である。

①灰釉陶器

小茶円遺跡（いわき市）、三城潟家北遺跡（猪苗代町）に集中し、他の遺跡は個体数で10個体未満である。産地は尾張産（猿投・尾北窯）が多く、東海西部（東濃窯）が続く。東海東部産（二川窯）は白河関跡（白河市）で出土している。器種は、碗皿類が多く、瓶類が続く。碗皿類は段皿や輪花は少ない。瓶類は長頸瓶（または広口瓶）が多く、無台の小瓶は白河郡家の関和久上町遺跡（泉崎村）や小茶円遺跡、三城潟家北遺跡などで出土している。このほか、三城潟家北遺跡では耳皿、福島市勝口前畑遺跡では平瓶がある。

時期は尾野編年Ｖ期新段階（９世紀初頭）からⅧ期古段階（11世紀前半）まで確認できたが、主体はⅥ期（９世紀前半～10世紀前半）が大半を占める。Ⅶ期以降の主な資料は大江古屋敷遺跡（会津坂下町）、慧日寺跡（磐梯町）、栄町遺跡（須賀川市）、馬場小路遺跡（郡山市）、番匠地遺跡（いわき市）などで出土している。

②緑釉陶器

出土遺跡は28遺跡（地点）を数え、灰釉陶器出土遺跡数の約半分となる。大半は１点のみの出土で、複数個体出土する遺跡は磐城・会津郡家周辺、耶麻郡南部・会津郡北部、信夫郡南部（勝口前畑遺跡）などに限定される。

産地は灰釉陶器同様、尾張産や東海西部が多い。山城産（洛北・洛西窯）は小茶円遺跡や鏡ノ町遺跡Ａ・Ｂなどで、近江産は関和久遺跡（白河郡家）や三本木遺跡（会津坂下町）などで認められる。

器種は碗皿類が圧倒的であるが、鏡ノ町遺跡Ｂで陰刻花文のある段皿、小茶円遺跡の稜碗（ともに尾張：尾野Ⅵ中段階）がある。手付瓶は東原Ａ遺跡（双葉町）、関畑遺跡（本宮市）、鏡ノ町遺跡Ａと中谷地遺跡（喜多方市）、蓋が鏡ノ町遺跡Ｂと小茶円遺跡で出土している。時期は尾張・東濃窯の尾野編年Ｖ新段階（９世紀前半）の東高久遺跡（会津若松市）出土碗などが最も古く、山城・篠窯産の高橋編年Ⅱ～Ⅲ期（９世紀中～末）、近江産の高橋編年Ⅱ古期（10 世紀後半）まで認められる。

③その他

多彩陶器（奈良三彩・二彩）は７遺跡で出土している。小壺ないし壺が岩崎町遺跡（福島市）、大久保Ｆ遺跡・大猿田遺跡（いわき市）、鏡ノ町遺跡Ａ（喜多方市）で、浄瓶が七ツ池遺跡（郡山市）、火舎が慧日寺跡（磐梯町）、托が小浜代遺跡（富岡町）で出土している。

貿易陶磁器は４個体出土している。大江古屋敷遺跡と大毛内Ｂ遺跡（相馬市）で越州窯系青磁碗、吉原遺跡（会津坂下町）では邢州窯系壺、長沙窯系緑釉壺がそれぞれ出土している。時期は吉原遺跡が９世紀後半、大江古屋敷遺跡と大毛内Ｂ遺跡は10世紀である。

２．遺跡の性格と施釉陶磁器の組成・時期

①郡家と郡家周辺

白河郡家の関和久・関和久上町で灰釉陶器７個体と

緑釉１個体の合計８個体、石背郡家の栄町遺跡で灰釉陶器３個体の報告がある。両遺跡とも郡庁・正倉での出土が少なく、館院と考えられるブロック（関和久遺跡の中宿・古寺地区、栄町遺跡の１～３次調査区）での出土が多い。器種は碗が多いが、関和久上町遺跡の区画溝からは灰釉陶器小瓶が出土している。時期は尾野編年Ⅴ期古段階からⅥ期（９世紀代）を中心とする。

また、両遺跡とも灰釉陶器を用いた転用硯が確認されている。灰釉陶器を用いた転用硯は磐城郡の生産工房である大猿田遺跡でも認められ、官衙的傾向が強い。

一方、磐城郡家の北西部に位置する小茶円遺跡は灰釉陶器 90 個体、緑釉陶器 38 個体が報告され、陸奥国南部で最大の出土量となる。灰釉陶器は尾張・東海西部（東濃）が主で、緑釉陶器は尾張・東海西部（東濃）に加え、山城・篠窯も一定量含まれるのが特徴で、時期は尾野Ⅵ期を主体とする。遺構は竪穴建物跡と小規模な掘立柱建物からなる遺跡で、大同元（806）年銘の木簡などが出土している。河川近くの立地などから、荒田目条里・砂畑遺跡などとあわせて、津の可能性が高いと考えている。

このほか、行方郡家周辺の広畑遺跡、標葉郡家周辺の東原Ａ遺跡、会津郡衙周辺の遺跡群（西木流Ｃ・Ｄ、鶴沼Ｂ遺跡など）、信夫郡家推定地周辺の五十辺遺跡でも２個体以上の施釉陶器（灰釉陶器と緑釉陶器）が出土している。時期は９世紀代を中心とし、多くは円面硯などの陶硯を出土する。

②寺院

石背郡家付属寺院の上人壇廃寺跡では、灰釉陶器 11 点、緑釉陶器１点が出土している。灰釉は碗皿類と瓶類で輪花碗を含む。また、金付着の緑釉陶器は紺紙の荘厳経などに用いられた可能性が高く、撥形の経軸端も出土している。金付着の灰釉陶器は多賀城跡・山王遺跡・後田遺跡などで出土しているが、緑釉陶器の使用例としては唯一となろう（埼玉県埋文 1997）。

慧日寺跡では、尾野Ⅷ期までの灰釉陶器のほか、二彩火舎なども含まれる。小浜代遺跡でも二彩の托が出土している。

③豪族居宅・生産遺跡

郡家から距離があり、かつ小規模で計画的な掘立柱建物を配置、囲繞の区画溝・塀を有するものなどを豪族居宅としたほか、掘立柱建物跡などを主とする遺跡や生産遺跡（鍛冶・製鉄・土器）もここに含めた。

豪族居宅は耶麻郡の鏡ノ町遺跡Ａ・Ｂ、会津郡の大江古屋敷遺跡、信夫郡の勝口前畑遺跡や岩崎町遺跡、安積郡の正直Ｃ遺跡、石背郡の矢ノ目Ａ遺跡などで認められる。組成は、灰釉陶器を主とするが、緑釉陶器もしくは多彩陶器・貿易陶磁器が出土する例が多い。灰釉陶器も勝口前畑遺跡では平瓶が出土するなど、ほかでは出土しない器種も認められる。

生産遺跡の代表は、磐城郡の大久保Ｆ遺跡（土器生産）や大猿田遺跡（木製品）が挙げられる。双方とも二彩陶器を保有するのが特徴である。

④交通関連遺跡

東山道などの駅路、郡家間の伝路などに立地する駅家や関連する集落、河川近くの津が想定される例をここに含めた。

前者は、白河関跡（白河市）や松並平遺跡（棚倉町）などがある。松並平遺跡は弘仁２（811）年のいわゆる海道十駅廃止後、新たに設置された長有駅周辺に立地する駅子集落で、東濃窯の灰釉陶器が出土する。

山間地の道路沿いに立地する例は荻平遺跡（相馬市）や岩ヶ作遺跡（郡山市）などがある。荻平遺跡は宇多郡と信夫郡を結ぶ山間地で、灰釉陶器のほか銙帯が出土している。

津などの性格を考えられるのは、磐城郡家周辺の小茶円遺跡などや耶麻郡東部の三城潟家北遺跡、会津郡北部の遺跡群（高畑遺跡・吉原遺跡）などが挙げられる。三城潟家北遺跡は猪苗代湖北岸に位置し、運河状の大溝を中心に灰釉陶器が 68 個体出土している。個体数は小茶円遺跡に次ぐ量で、緑釉陶器はない。器種は碗皿を中心とし、輪花を含む。また、耳皿や小瓶も含まれる。産地はすべて東海西部（東濃窯）で、実見したところ尾野編年Ⅵ期中段階から新段階にほぼ集中する。このほか、二間四方の倉など小規模な総柱建物を有する会津郡北部・耶麻郡南部の阿賀川沿いの遺跡群でも緑釉陶器や貿易陶磁器が出土する。

３．まとめ

陸奥国南部における施釉陶器の分布は、地域ごとで

は大きな傾向が認められない。特に灰釉陶器は９世紀後半以降、山間地の小規模な集落からも出土し、市や都鄙間の往来に伴って入手したことが想定される。

遺跡の性格では、郡家（郡庁院・正倉院）では少なく、郡家の館院や郡家周辺の関連遺跡、豪族居宅・出先機関と考えられる遺跡の出土量が多い。しかし、国府との隔たりは大きい。

一方で、出土量が卓越するのは、湖や河川近くに立地する交通の要所で、集積地・集散地の可能性が高い三城潟家北遺跡や小茶円遺跡などの例である。船などの水運を利用し、荷揚げを行ったのちに陸路で流通していたことが想定されよう。

時期は灰釉陶器・緑釉陶器では９世紀中葉以降（尾野Ⅵ期中段階）の出土が多く、10 世紀前半までは継続するが、10 世紀中葉以降は減少、11 世紀にはほぼ出土しない。

田中広明氏は関東地方の施釉陶器、特に灰釉陶器の流通について、９世紀後半以降に国府の「市」が最大の消費地として成長するとともに、大規模な開発を担う遺跡や富裕層が各地での拠点的な消費地となる点や、流通は国郡や都鄙間交通を基本としながらも、坂東に設置した勅使田や王臣家荘園の経営にかかわった富豪浪人や「僦馬の党」に代表される輸送請負集団が流通の原動力となった点を指摘する（田中2003）。このほか、国府に出土が偏る事実は国司の出自による可能性も指摘されている（平尾・尾野2009）。

これら先行研究にある坂東諸国での状況が陸奥・出羽国にも該当するのかは今回問題提起するにとどめ、今後の課題としたい。

第１表　施釉陶磁器出土一覧（灰釉陶器３個体、緑釉陶器・多彩陶器・輸入陶磁器は１個体以上の出土例）

郡	遺跡名	所在地	灰釉		緑釉		多彩	輸入	文献
			碗皿	瓶類	碗皿	瓶類			
耶麻郡（旧会津郡）	古屋敷遺跡	喜多方市			2				1
	鏡ノ町遺跡A	喜多方市	1		2	1	1		2
	鏡ノ町遺跡B	喜多方市	2	1	1	1			3
	舘ノ内遺跡	喜多方市			11				4
	中谷地遺跡	喜多方市	1		4	1			5
	慧日寺跡	磐梯町	10	○	○		3		6
	三城潟家北遺跡	猪苗代町	64	4					7
会津郡	墓料遺跡	会津若松市	3						8
	西木流C（市調査）	会津若松市	3						
	東高久遺跡	会津若松市	1		1				9
	西木流Ｄ（県調査）	会津若松市			2				10
	高畑遺跡	会津坂下町			2				11
	三本木遺跡	会津坂下町	1		1				12
	大江古屋敷遺跡	会津坂下町	2					1	13
	吉原遺跡	会津坂下町						2	14
信夫郡	川原田遺跡	桑折町	1		1				15
	房ノ内遺跡	福島市	15						16
	五十辺遺跡	福島市	17	5					17
	岩崎町遺跡	福島市		1			2		18
	勝口前畑遺跡（４）	福島市		2	4				19
	勝口前畑遺跡（２）	福島市	1		1				20
安積郡	中台遺跡	本宮市			1				21
	関畑遺跡	本宮市				1			
	正直C遺跡（Ｘ地点）	郡山市	4						22
	岩ヶ作遺跡（２次）	郡山市	4		1				23
	七ツ池遺跡	郡山市					1		24
石背郡	栄町遺跡	須賀川市	20	3	4				25
	上人壇廃寺跡	須賀川市	16	3	1				26
	北明石田遺跡	須賀川市			2				27
	矢ノ目A遺跡	須賀川市	6						28
白河郡	関和久（中宿・古寺地区）	白河市	5	1	1				29
	白河関跡	白河市	9						30
	松並平遺跡	棚倉町	3	2					31
宇多郡	大毛内Ｂ遺跡	相馬市						1	32
	荻平遺跡（２次）	相馬市	2	1					33
	別所遺跡	新地町			1				34
行方郡	広畑遺跡	南相馬市	4						35
標葉郡	小浜代遺跡	富岡町					2		36
	東原A遺跡	双葉町				1			37
	植松遺跡	楢葉町			1				38
	小山B遺跡	楢葉町	2		3				39
磐城郡	大久保F遺跡	いわき市					1		40
	大猿田遺跡（２次）	いわき市	1				1		41
	久世原館	いわき市	4						42
	久世原館・番匠地遺跡	いわき市			1				43
	小茶円遺跡	いわき市	87	3	37	1			44
	荒田目条里・砂畑遺跡	いわき市	17		4				45
菊多郡	神力前B遺跡	いわき市	6	1					46

文献

1：塩川町教委　1999『古屋敷遺跡』、町６集、2：塩川町教委　1997『鏡ノ町遺跡A』、町３集、3：塩川町教委　2001『鏡ノ町遺跡B』、町８集、4：塩川町教委　1998『舘ノ内遺跡』、町４集、5：喜多方市教委　2010『中谷地遺跡　宮ノ前遺跡』、市７集、6：磐梯町教委　1998『史跡慧日寺跡ⅩⅢ』、2013『史跡慧日寺跡ⅩⅩⅤ』ほか、7：猪苗代町教委　1995『三城潟家北遺跡』、8：会津若松市教委　2000『若松北部県営ほ場整備発掘調査報告書Ⅱ』、市66号、9：会津若松市教委　2005『東高久遺跡』、市104号、10：福島県教委　2016『会津縦貫北道路遺跡調査報告16』、県505集、11：会津坂下町教委　1992『阿賀川Ⅱ期地区遺跡発掘調査報告書』、町27集、12：会津坂下町教委　1992『阿賀川地区遺跡調査報告書』、町28集、13：会津坂下町教委　1990『大江古屋敷遺跡』、町16集、14：会津坂下町教委　2007『吉原遺跡（第２・３次調査）』、町59集、15：福島県教委　2018『一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告６』、県523集、16：福島市教委　1988『房ノ内遺跡』、市26集、17：福島市教委　1987『五十辺遺跡』、市22集、18：福島市教委　1992『岩崎町遺跡』、市47集、19：福島市教委　1996『勝口前畑遺跡４』、市88集、20：福島市教委　1995『勝口前畑遺跡２』、市68集、21：本宮町　1999『本宮町史４』、22：福島県教委　1995『母畑地区遺跡発掘調査報告36』、県305集、23：郡山市教委　1997『国道288号（郡山東バイパス）改築工事関連　夢田遺跡・山田Ｃ遺跡・岩ヶ作遺跡』、24：愛知県陶磁資料館・五島美術館　1998『日本の三彩と緑釉』、25：須賀川市教委　2012『栄町遺跡』、市60集、26：須賀川市教委　2011『上人壇廃寺跡』、市59集、27：須賀川市教委　2005『仁井田地区ほ場整備事業関連遺跡発掘調査報告』Ⅲ、市50集、28：須賀川市教委　2004『仁井田地区ほ場整備事業関連遺跡発掘調査報告』Ⅰ、市48集、29：福島県教委　1985『関和久遺跡』、県153集、30：白河市　2001『白河市史４　資料編１』、31：棚倉町教委　1985『松並平遺跡』、32：福島県教委　2022『梅川筋改修事業遺跡調査報告』県554集、33：福島県教委　2009『阿武隈東道路遺跡発掘調査報告２』、県463集、34：福島県教委　2006『相馬第二地区遺跡発掘調査報告３』、県429集、34：原町市教委　2000『県営高平地区ほ場整備事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ』、市21集、36：富岡町教委　1970～72『小浜代遺跡発掘調査概報（１次～３次）』、37：双葉町教委　2002『標葉』町23冊、野坂知広　2009「双葉町東原Ａ遺跡第23号住居跡の再検討」『福島考古』50号、38：楢葉町教委　2004『植松遺跡』町第12集、39：福島県教委　2002『常磐自動車道遺跡調査報告30』、県389集、40：福島県教委　1996『常磐自動車道遺跡調査報告８』、県330集、41：福島県教委　1997『常磐自動車道遺跡調査報告11』、県341集、42：いわき市教委　1991『久世原館』、市30冊、43：いわき市教委　1993『久世原館・番匠地遺跡』、市33冊、44：いわき市教委　2001『小茶円遺跡』、市76冊、45：いわき市教委　2002『一般国道６号常磐バイパス遺跡発掘調査報告』Ｘ、市第84冊、46：いわき市教委　2011『神力前Ｂ遺跡（6・12区』、市147冊

引用・参考文献

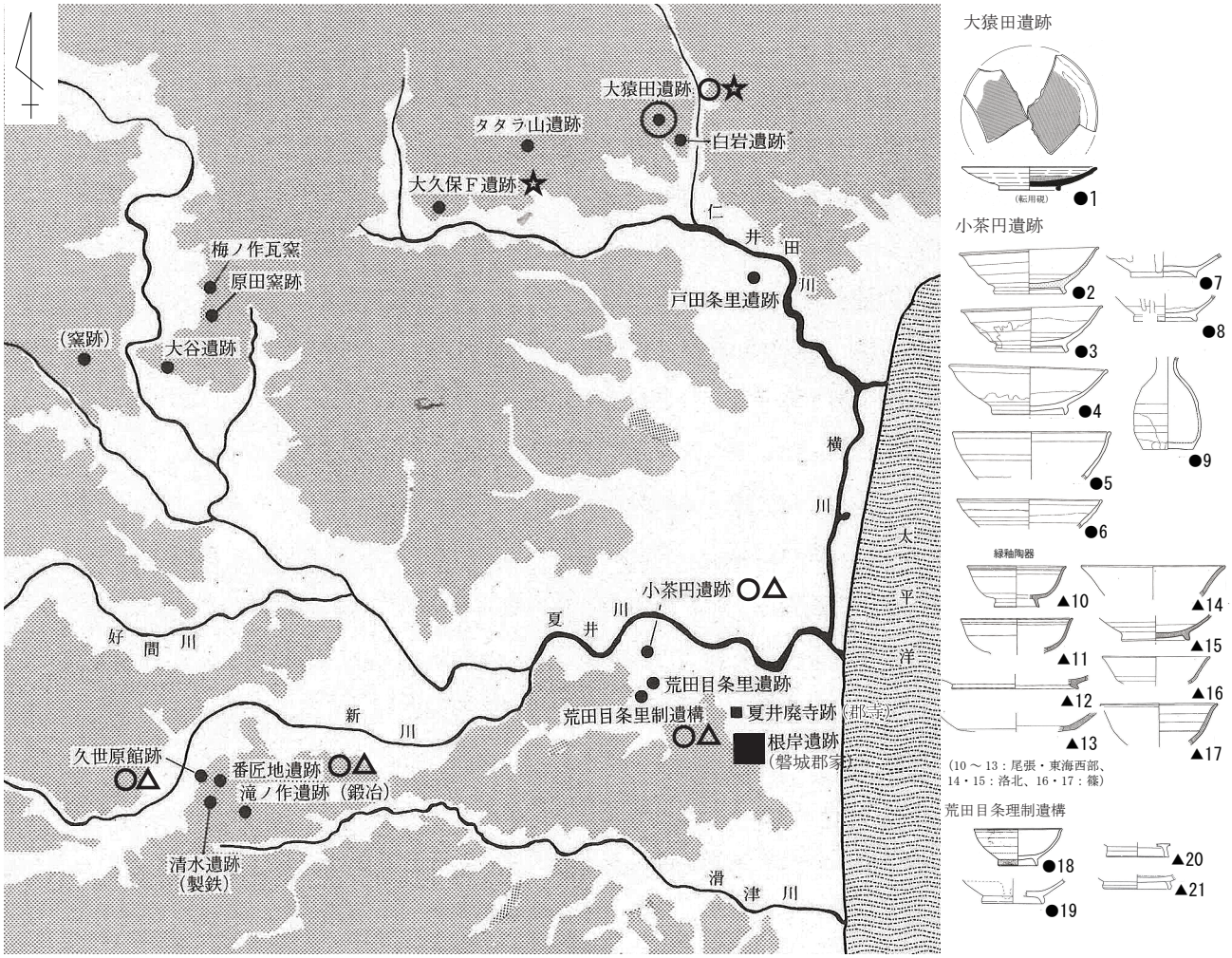
柳沢和明 1994「東北の施釉陶器－陸奥を中心に－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東３　施釉陶器』、古代の土器研究会

埼玉県埋蔵文化財センター　1997『中堀遺跡』第 190 集

田中広明 2003『古代の豪族と古代の官人』柏書房

平尾政幸・尾野善裕 2009「湘南新道関連遺跡出土施釉陶器の様相と相模国府」『湘南新道関連遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団

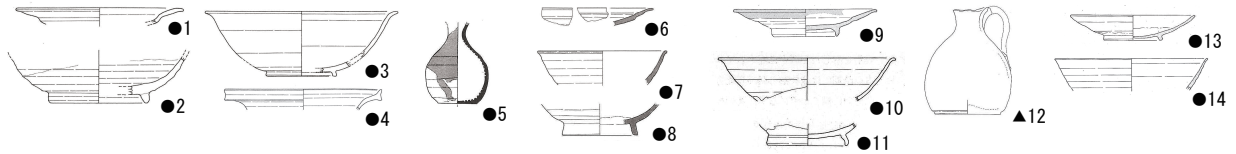
宮城県多賀城跡調査研究所 2020『多賀城跡施釉陶器』研究所資料Ⅴ



第１図　磐城郡衙と周辺の遺跡（文献 41 に加筆））

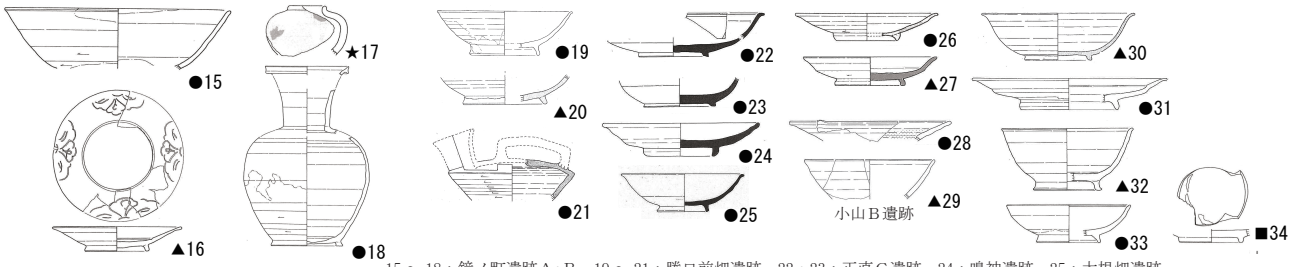
○灰釉陶器　△緑釉陶器　☆二彩・三彩の出土遺跡を示す

郡家・郡家周辺



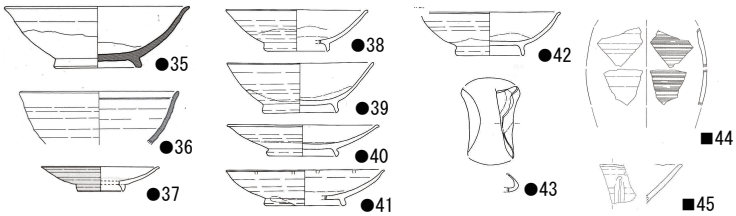
1～4：関和久遺跡、5：関和久上町遺跡、6～8：栄町遺跡、 9：五十辺遺跡、10・11：広畑遺跡、12：東原Ａ遺跡、13・14：西木流Ｃ遺跡

豪族居宅

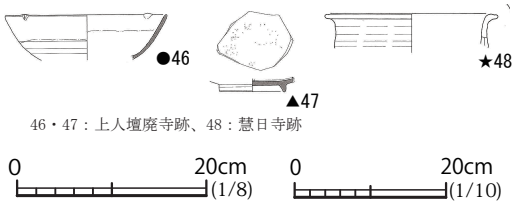


15～18：鏡ノ町遺跡Ａ・Ｂ、19～21：勝口前畑遺跡、22・23：正直Ｃ遺跡、24：鳴神遺跡、25：大根畑遺跡、
26：矢ノ目Ａ遺跡、27：北明石田遺跡、28・29：小山Ｂ遺跡、30：東高久遺跡、31・32：三本木遺跡、33・34：大江古屋敷遺跡

交通関連



寺院



46・47：上人壇廃寺跡、48：慧日寺跡

35・36：白河関跡、37：松並平遺跡、38～43：三城潟家北遺跡、44：吉原遺跡、45：大毛内Ｂ遺跡

第２図　出土施釉陶磁器　●灰釉陶器　▲緑釉陶器　★二彩・三彩　■貿易陶磁器